



Topics 4 / 7 新人職員および病院関係者の消火訓練を行いました

4 月 7 日（月）、新人職員研修の一環として、津市北消防署およびエネルギーセンター（日本空調サービス）の方々にご協力をいただき、消火器・消火栓を使用した防災研修を行いました。訓練の流れとして、まずは、臨床第三講義室にて最新の「災害対策マニュアル Ver.5.0」についての講義を受け、その後、外来棟 1 階感染症危機管理センター前にて、水消火器等を使用した初期消火訓練を行いました。

医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、放射線技師などの新人スタッフ約 140 名は、初めて扱う消火栓等に戸惑いながらも、訓練の大切さを学んでいました。初めて消火栓を操作したという新人職員は、「ホースを持つ手に水の振動が伝わってきました」、「水圧が思った以上に強く、飛ばされそうになりました」と語っていました。また、「消防士の方に消火について質疑応答する時間もあり、大変有意義な訓練でした」という声も聞かれました。

新人職員研修終了後には、任意参加の病院関係者への消火訓練も併せて実施しました。病院職員の約 15 名の方にご参加いただき、新人研修と同様、有事の際の適正な消火器の使用方法や消火の手順を体験していただきました。

知っていましたか？消火栓の使い方

当院にある易操作性 1 号消火栓はホースの延長操作が容易な構造のため、1 人で操作が可能であり、20 分以上放水ができます。

<消火栓の使い方>

- ① 火災を発見したら非常ベルのボタンを押す。
- ② 扉を開けノズルを持ち、バルブ（開閉弁）を全開にする。
- ③ ホースを持ちながら延長し、出火場所へ向かう（ホースの長さ 20m）。
- ④ ノズルバルブを開き放水する。

※ホースやノズルを離すと水の圧力でうねるため、ノズルはしっかりと持つ。

消火栓の使用方法

火災発生時の初期消火に使用。一人で操作可。



【使用手順】

- ① バルブを開く
- ② ホースを伸ばす
- ③ ノズルを火元に向けノズルバルブを開き放水する



新人職員研修の様子

講義の様子



消防からの説明



初期消火訓練 ～消火器～



初期消火訓練 ～消火栓～



一般職員・病院関係者消火訓練の様子

初期消火訓練 ～消火器～



初期消火訓練 ～消火栓～





4月から防災ワーキング・グループ委員として携わらせていただくことになりました。南海トラフ地震など、いつ起こるかわからない未経験の災害に対して、どこか他人事と感じる人も多いのではないのでしょうか。いかに一人ひとりが自分事と考えることができるか尽力していきたいです。

News 「災害対策マニュアル Ver.5.0」を 発刊しました

災害対策マニュアル Ver.5.0 を4月に発刊しました。Ver.4.1からの主な改訂内容は以下のとおりです。

- 災害対策本部設置基準
- 災害対策本部設置フロー図
- 災害対応組織図
- 火災発生時の対応

当院における災害時の行動指針となりますので、平時からの備えとして是非ご一読していただくようお願いいたします。



<閲覧方法>

附属病院ホームページ → 職員専用ページ → 業務支援ポータルサイト → ポータルメニュー → 「災害対策マニュアル Ver.5.0」

News 南海トラフ地震の最新被害想定が 公表されました

内閣府により、南海トラフ地震の被害想定が13年ぶりに全面的に見直されました。三重県の被害想定は、津波対策の進展や人口減少などにより、前回の想定から30%余り減りました。津市の被害想定では、最大震度7、最大津波高6mと前回同様となっており、津波到達時間は57分と前回より9分短く推定され、浸水地域も約3割拡大しています。今一度、自宅付近や通勤経路のハザードマップを確認しておきましょう。

また今回初めて「災害関連死」が全国で約5万2千人に上ると推計されました。災害関連死は、災害による直接的な被害により亡くなるのではなく、避難所での生活環境による体調悪化により間接的に亡くなることです。災害時における病院の役割として、この災害関連死をいかに防ぐかが重要となります。日頃からこれらの被災者への対応に備える事が急務になっています。



Column 風水害緊急参集計画について～BCP 第2版より～

風水害が発生した際、病院等の安全を確保しつつ、病院機能の継続を図るには人員を確保する必要があります。そこで、「風水害緊急参集計画」をBCP第2版発行（3月31日発行）に伴い、新たに策定しました。今回は、みなさんに知っていただきたい「風水害緊急参集計画」についてご紹介します。



◆参集対象者

全職員が対象となります。しかし、家族等に幼児や要介護者等があり、保育や看護などの事情により登院が困難な職員等は対象外とし、登院が可能となった時点で参集とします。

◆段階的な参集計画

風水害の特性として、気象状況の発表から被害発生までのリードタイム(対応時間)が確保できることから、気象状況等を勘案し人員体制を2段階で緊急参集する計画を定めています。

緊急参集区分	発令基準	参集対象者
第1 緊急参集	風水害警戒レベル3（大雨警報、洪水警報、氾濫警戒情報）相当 ① 台風の進路が当院を含む広いエリアに予想され、暴風雨による河川の氾濫等による被害が予想される ② 気象情報等から所在地域の風水害被害が予想される	・科長会構成員、看護師長 ・参集対象者の1/2
第2 緊急参集	風水害警戒レベル3～4（氾濫危険情報、土砂災害警戒情報）相当 ① 台風の進路が当院を通過する予想がされ、暴風雨による河川の氾濫等による被害予想が高い ② 気象情報等から所在地域の風水害被害が予想される	・科長会構成員、看護師長 ・参集対象者全員

Center Message

4/7の消火訓練では、新人職員や病院関係者の方に日頃あまり触れることのない火災の初期対応について知っていただける良い機会となりました。火災は初期消火が重要となるため、ひとりでも多くの方に知っていただくことが大切です。また、新年度にかけて災害対策マニュアルとBCP改訂版を作成しました。災害時の行動指針として、重要となりますので、この機会にぜひ目を通してみてください。（センター看護師：な）